

## 協働で進める森林づくり活動を実現するために - 都市と山村における住民と森林所有者の意識の違いをふまえて -

青 柳 かつら

近年、地域の特性や要望に応じて、森林を守り、利用する（以下、森林保全とします）ことが重要となっており、こうした森林保全の方法として住民参加型の森林づくり活動が注目されています。そうした森林づくり活動は、住民と行政の「協働」、すなわちお互いのパートナーシップによって、展開していくことが求められます。

ところで、住民による森林の利用は、レクリエーションや教育の場など多目的となり、また住民の立場が様々であることから、森林保全への考え方も多様化していると思われます。これを踏まえた上で、協働による森林づくり活動を実現させるには、住民の森林保全に対する考え方の違いをとらえ、そこから、住民が相互に協力関係をつくる方法や望ましい活動内容等を検討し、協働で進める森林づくり活動を実現するための方向性を探ることが重要であると考えられます。

そこで、まず、住民の森林保全への考え方を把握するため、非森林所有者（以下、住民とします）と森林所有者（以下、所有者とします）、都市と山村という、立場と地域の違いに着目したアンケート調査を行いました。次に、この結果と森林づくり活動の事例報告をもとにして、協働で進める住民参加型の森林づくり活動を実現するための課題と解決の方向について検討しました。

### 都市と山村の住民、森林所有者を対象とするアンケート調査

調査地は、森林率や就業人口に占める林業者の比率等を観点に、都市の事例として北広島市、山村の事例として滝上町を選びました（表 - 1）。北広島市は、石狩平野の中央部、札幌市近郊に位置し、近年、住宅・工業団地の造成等、都市規模が拡大しています。滝上町は、北見山地に位置し、三方を山に囲まれた山間地域です。2001年に、北広島市の住民1,000名、同市域の所有者500名、滝上町民（住民および所有者）500名を無作為に抽出し、郵送法によるアンケート調査を行いました。有効回答数は、北広島市の住民が392（回収率39.2%）、同市域の所有者が141（同28.2%）、滝上町民が151（うち住民121，所有者30）（同30.2%）でした（図 - 1）。なお、滝上町民のデータは、住民と所有者を分けて集計しました。

表 1 調査地概要

	北広島市	滝上町	北海道
人口(千人)	57 *1	4 *2	5,670 *3
総面積(km <sup>2</sup> )	119	767	83,500
森林率(%)	37 *3	90 *3	67 *3
就業人口に占める 林業者の比率(%)	0.05 *4	4 *4	0.2 *5
製造品出荷額に占める 木材・木製品・家具の比率(%)	1 *5	72 *1	6 *5

注) 北海道林業統計、北広島市役所、滝上町役場の資料による  
\*1 2000年 \*2 1999年 \*3 2001年 \*4 1995年 \*5 1997年

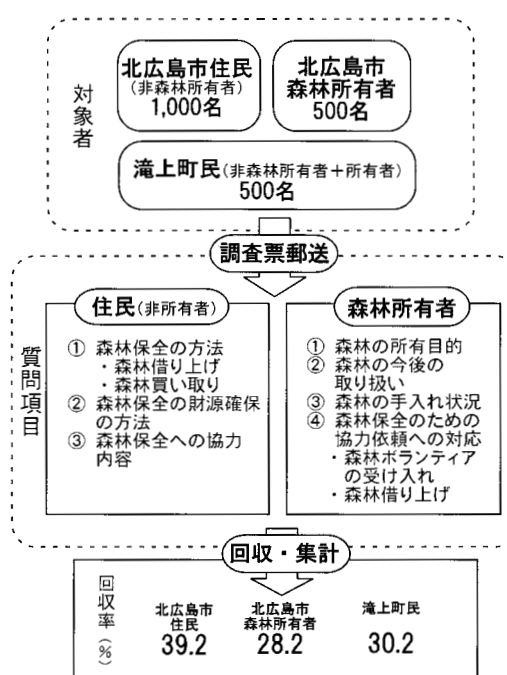


図 1 アンケート調査の成り立ち

森林保全に関する住民の意識

アンケートでは、森林保全を目的として、自治体などが、所有者から森林を借りる「借り上げ」、所有者から森林を買う「買い取り（公有林化）」の是非についてたずねました。「借り上げ」「買い取り」とも「良い方法である」という回答が最多であり、北広島市では60%、滝上町では40%を超える支持が得られました（図- 2）。

また、森林保全を実施する財源の確保については、「必要なし」は2市町とも10%台であり、住民の多くはその必要を認めていました。多数の支持が得られた財源確保の方法は、北広島市で

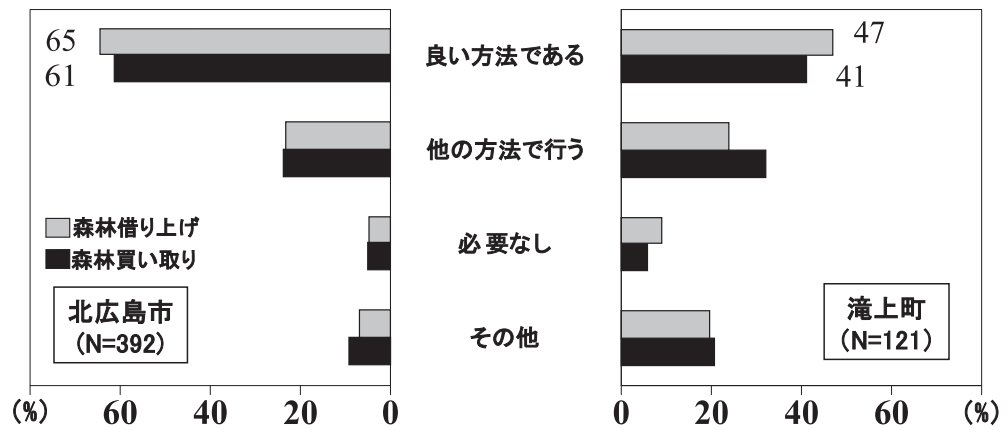


図 2 森林保全の方法（住民対象）

は「自治体による公有林化（25%）、滝上町では「税制導入（26%）」であり、森林保全に公的資金の投入を認める意見も多くみられました。しかし、滝上町では「わからない」が最多の30%であり、森林保全の財源の選択には、戸惑いがあることも見受けられました（図- 3）。

さらに、自分ができる森林保全への協力内容について「関心がない」は、2市町とも10%以下で、ほとんどの住民は森林保全への協力に何らかの関心を持っていました。協力内容で最も多いのは「森林

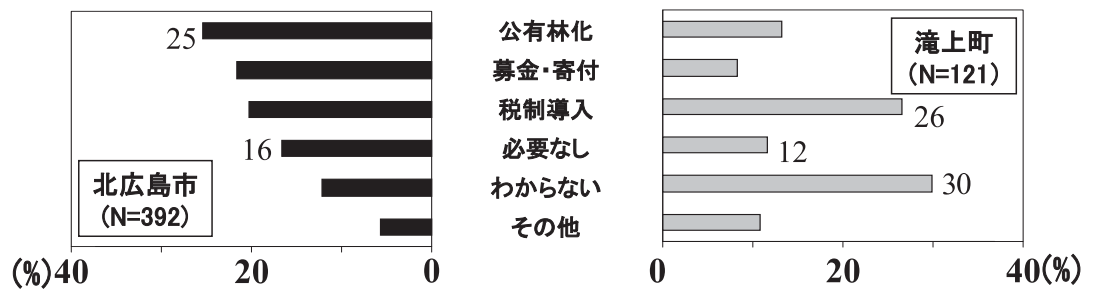


図 3 森林保全の財源確保の方法（住民対象）

の清掃・見回り等のボランティア」で、北広島市では54%、滝上町では30%でした（図- 4）。2市町とも住民の多くは森林保全に関心を持ち、協力内容についてはボランティアの意欲を持っている人が最も多いことがわかりました。

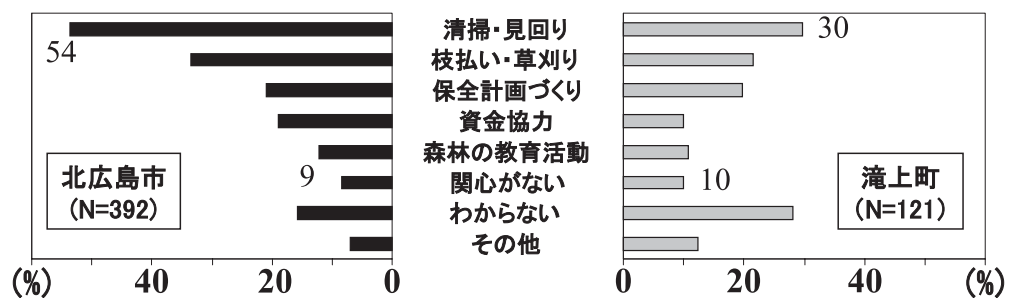


図 4 森林保全への協力内容（住民対象）複数回答

の清掃・見回り等のボランティア」で、北広島市では54%、滝上町では30%でした（図- 4）。2市町とも住民の多くは森林保全に関心を持ち、協力内容についてはボランティアの意欲を持っている人が最も多いことがわかりました。

森林保全に関する所有者の意識

森林の所有目的については「資産・財産として」が最も多く、北広島市で42%、滝上町で67%でした(図-5)。所有者は、第一に森林を資産と捉えており、森林の所有には強い思い入れがあることがわかりました。

次に、森林の今後の取扱いについては「当面は森林のままにしておく」が最も多く、北広島市で52%、滝上町で73%でした。

一方「事業地・宅地化、売却したい」とする、森林にこだわらない土地利用や売却を希望する回答は、北広島市では36%と次いで多くみられました(図-6)。

また、森林の手入れの状況について、最も多い回答は北広島市では「手入れは必要だがしていない(43%)」、滝上町では「除間伐・つる

きり(57%)」で、次いで「手入れは必要だがしていない(43%)」が多くみられました。手入れ不足を認識する回答は2市町とも40%を超えました(図-7)。

さらに、自分の森林に対する森林保全のための協力依頼、すなわち、自治体や住民から、森林を借り上げたいという申し出(貸与依頼)があ

った場合の対応、および、住民ボランティアから森林の手入れをさせて欲しいと申し出があった場合の対応をたずねました。双方の場合とも「関心がない」は、2市町とも4%以下でした。これに対して、最も多いのは「詳しく聞いて決める」で、森林貸与では、北広島市が43%、滝上町が57%、ボランティアの受け入れでは、北広島市が35%、滝上町が43%でした(図-8)。森林保全に関する所有者の意識として、関心を持っているものの、具体的な協力依頼に対して、実際に依頼を受け入れるか否かについては、慎重な姿勢をとる回答が最も多いことがわかりました。

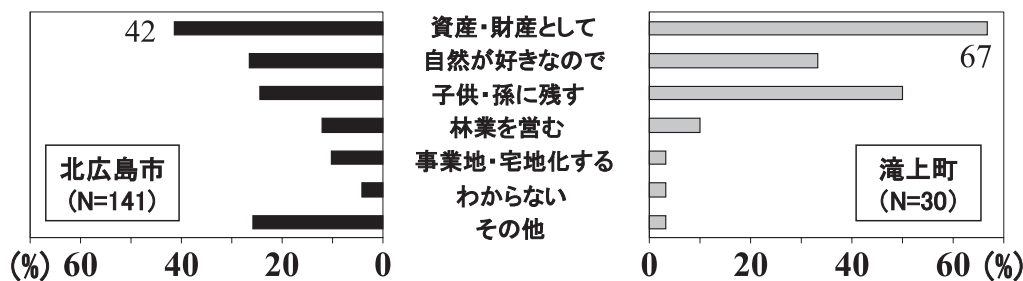


図 5 森林の所有目的 (所有者対象) 複数回答

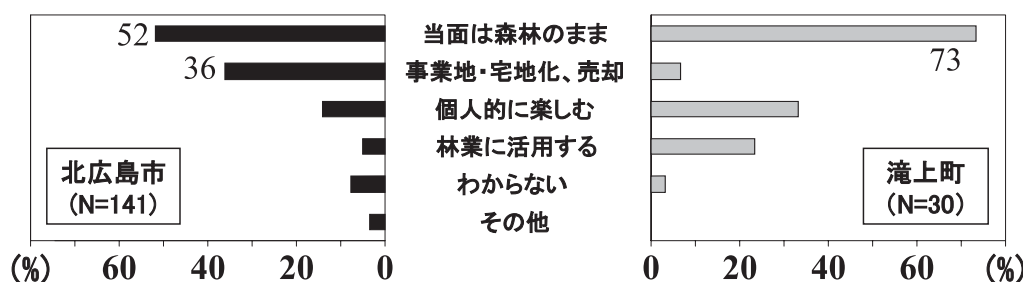


図 6 森林の今後の取り扱い (所有者対象) 複数回答

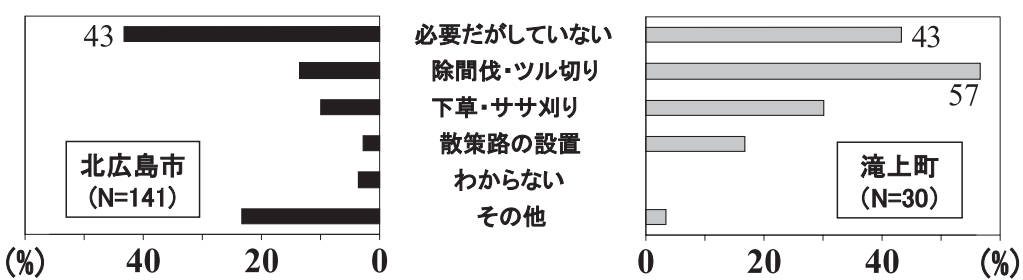
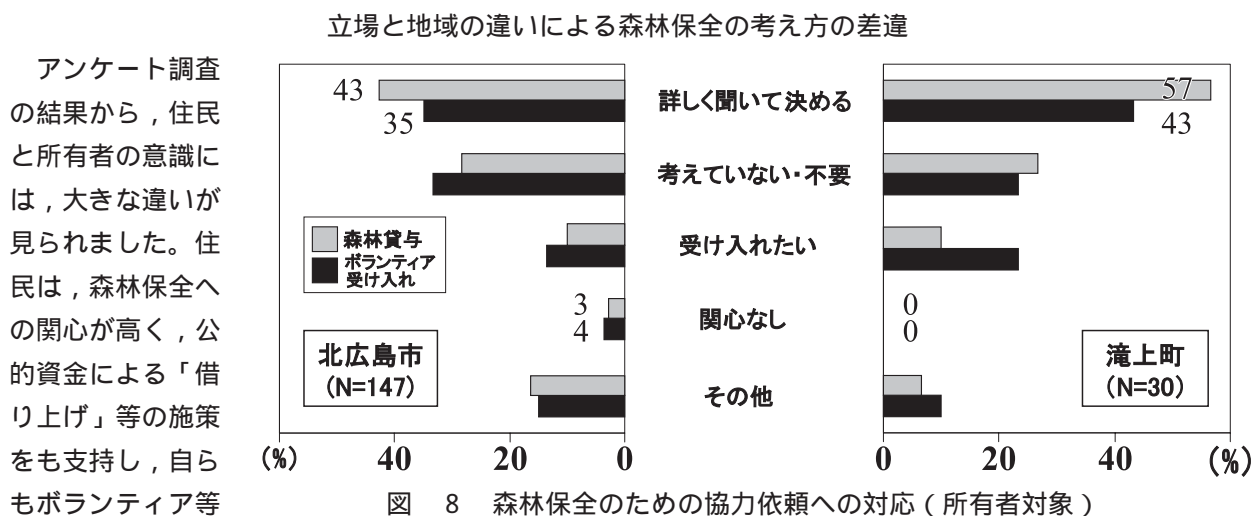


図 7 森林の手入れ状況 (所有者対象) 複数回答



また、都市と山村の意識にも、大きな違いが見られました。都市化の進む北広島市では、林地開発の機会ももとより多く、所有者が森林を土地として活用しようとする志向も高くなります。この林地開発への志向性という背景があるということや、40%弱という比較的少ない森林率から、住民が生活に森林を求める意識は高まり、開発を抑制する手段として、森林保全施策への支持が、滝上町よりも高くなっていることが考えられます。一方、面積の約90%を森林が占め、林業を基幹産業とする滝上町では、森林の取り扱いは地域経済に大きな影響を与える問題です。森林保全の必要を認めながらも、その方法に関しては「わからない」と態度を決めかねる傾向が見受けられました。

また、都市と山村の意識にも、大きな違いが見られました。都市化の進む北広島市では、林地開発の機会ももとより多く、所有者が森林を土地として活用しようとする志向も高くなります。この林地開発への志向性という背景があるということや、40%弱という比較的少ない森林率から、住民が生活に森林を求める意識は高まり、開発を抑制する手段として、森林保全施策への支持が、滝上町よりも高くなっていることが考えられます。一方、面積の約90%を森林が占め、林業を基幹産業とする滝上町では、森林の取り扱いは地域経済に大きな影響を与える問題です。森林保全の必要を認めながらも、その方法に関しては「わからない」と態度を決めかねる傾向が見受けられました。

#### アンケート調査結果の示す森林づくり活動の課題

アンケート調査の結果によって、住民と所有者は、森林保全という目的を共有していながら、その実行の方法に対する考え方には違いがあることがわかりました。住民と所有者の双方から森林づくり活動への積極的な参加を得るためには、お互いの協力関係や森林保全への合意をつくり出すための場、すなわち、双方が情報を共有することによって考え方の違いを理解し、解決の方法を検討できる意見交換の場が必要であると思われます。

また、都市と山村の間で森林保全の考え方に違いがみられたことは、森林率や林業の位置付けなど地域の居住環境や産業構造などの地域差が、森林保全への意識がつけられる上で影響を与えていることを示しています。このことから今後、森林づくり活動を地域からの支持と参加を得ながら発展させていくためには、参加者が活動を通じて自分の生活する地域を意識でき、その中で森林をとらえ、考える姿勢が促されるような内容づくりが大切になってくると考えられます。

#### 森林づくり活動事例からのヒント

アンケート調査結果によって示された、以上の課題を解決するために、既にいくつかの参考になる事例がみられます。例えば、森林づくりの技術講習や体験交流は、行政などの支援も受けながら、全国各地で行われています。そうした場合は、住民と指導等にあたる所有者・林業技術者が出会い、技術だけで



なく、森林や山に関する様々な知恵や体験を伝達・共有する機会、そして作業の楽しさや森林の大切さ、林業の存続の意味等を確認できる機会にもなっていることが報告されています。このため、こうした場合は、体験を伴う意見交換の場としても有効であり、住民と所有者の合意形成の足がかりにもなると考えられます。

また、活動の内容づくりに関する具体例として、福岡市内の鴻巣山では、

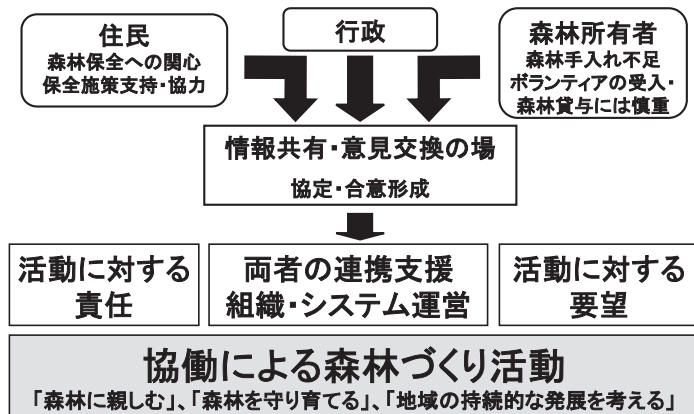


図 9 協働による森林づくり活動実現のための課題と解決の方向

住民や行政らの協働で進める森林保全活動として、ワークショップ形式で、自然観察やゲーム、間伐作業、森の将来像についての意見交換、保全計画づくり等が一貫して行われています。そこでは、活動が総合的に森林をとらえ、人々の保全意識を高める取り組みとなっている所が注目されます。

#### 課題と解決の方向

アンケート調査結果から明らかとなった課題や参考事例から、協働で進める森林づくり活動を実現するための方向性を検討したのが、図-9です。まず、住民と所有者が相互に協力関係をつくるためには、合意形成の出発点となる情報共有・意見交換の場が必要であると思われます。次に、アンケート調査結果で、森林ボランティアに関する捉え方に住民と所有者で温度差が見られたことなどに配慮し、森林づくり活動自体のレベル・アップを図り、活動に対する信頼性を高めることが重要であると考えられます。すなわち、住民、所有者、行政それぞれが自らの果たす役割を明確にし、例えば住民は、森林の手入れ技術の向上や活動の継続等、森林づくり活動に責任を果たす能力や意識を備えること、所有者は、活動場所の提供依頼を受け入れる条件等、森林づくり活動への要望を明らかにすることが求められるでしょう。行政は、これらの機会の設定や調整にあたり、活動組織やシステムの運営を支援する役割を果たすことが望まれるのではないのでしょうか。

さらに、活動内容としては、参加者の地域への意識を盛りたてることに配慮し、例えば、地域の森林におけるレクリエーション活動などで「森林に親しむ」、育林作業体験などで「森林を守り育てる」、市民会議などで「地域の持続的な発展を考える」といった、多様な取り組みを進めることが大切であると思われます。

森林づくりに長い時間と多くの労力が必要なように、森林づくり活動の実践にも長期的な展望と腰を据えた条件整備が必要でしょう。以上のような取り組みを進め、より積極性や主体性の求められる内容へと、活動を少しずつステップ・アップさせていくことによって、協働による森林づくり活動が実現するのではないのでしょうか。

(保健機能科)

(注) 本文をまとめるにあたって、全国林業改良普及協会(編)2002『森林と市民参加』緑のセミナー第11号、池谷キワ子1998『林業家の立場から』『林業技術』670、荒川純太郎1998『ひろしま人と樹の会』『林業技術』670、<http://www.earthcreation.co.jp/fsk/kaigi01.html>の文献を参考にしました。